



今年度も「笑顔で会える学校」をめざして

吉川中学校校長 遠藤克俊

令和4年度がスタートしました。今年度は新入生64名を迎え、全校生徒204名でのスタートとなりました。新しい年度が始まり、どの生徒も気持ちを新たにして、「今年度も頑張るぞ」という意欲が感じられます。部活動も活気が満ちてきて、吉川中学校は今、今後が楽しみになる、期待に胸膨らむ春となっています。



さて、今年度も「笑顔で会える学校」をスローガンに掲げました。そして、今年度の最大の課題は、生徒たちの「自尊心の高揚」の高揚です。昨年度、保護者の皆様にも、生徒の自尊心の高揚に向けて、一緒に考えていただきたいということで、ホームページのこのコーナーでも呼びかけをさせていただきました。

本校の生徒たちは素敵な子どもたちです。その素敵な子どもたちに、もっと「自信を持ってほしい」、もっと「自分を好きになってほしい」と強く願っています。今年度も、保護者の皆様と力を合わせながら、生徒の「自尊心の高揚」をめざし、頑張っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

さて、学校だより「笑顔で会える学校」等でも掲載し、また入学式などでも話はさせていただいていますが、今年度の学校の教育目標や方針などを記しておきたいと思っております。ぜひお読みください。

スローガン「**笑顔で会える学校**」について

「学校に来たら自然と笑顔になれる」。吉川中学校をそのような学校にしたいと考えています。毎日いろいろあります。生徒は朝、学校に登校するまでにも様々な感情が起こることでしょう。生徒によっては、家族とけんかをして玄関を出てきた人やテストが不安で気分が重い中登校してくる人など。けれど、吉川中学校の門をくぐり、友達に会えば自然と笑顔になれる。また、保護者の方



も、吉川中学校に来ると、なんだがいつも元気になり、笑顔になれる。そして地域の方も、吉川中学校の前を通ると元気になる、校門をくぐれば笑顔がこぼれるなどなど、生徒も保護者も地域の方も、「吉川中学校に来ると笑顔になれる」、そんな学校にしたいと考えています。

～「めざす子ども像」について～



めざす子ども像

- 【自律】自ら考え、判断し、行動する
- 【思いやり】まわりの人を大切にする
- 【柔軟】変化に柔軟に対応する

『自律』について

『自律』とは自分を律すると書きます。生徒たちには、自分を律するというを常に意識して行動してほしいです。もう少しわかりやすく説明すると、他人に任せたり、頼りっぱなしになるのではなく、常に「自分で考えて、判断し、行動する」人間になってほしいと思います。

自分で考え、判断し、行動する中で、時には失敗もするでしょう。困難にも出くわすでしょう。本当に苦しい時は、周りの大人や友人に助けをもらうことも必要です。けれども、生徒たちには、できる限り自分の力で乗り越える努力をしてほしいのです。そうするうちに、自分でできることが増えて、自然に自分自身に自信が持てるようになり、自分のことが好きになっていきます。そして毎日が楽しくなり、笑顔が増えていくと思います。そんな『自律』した生徒があふれる中学校になってほしいと願っています。



『思いやり』について

今、世界中がコロナウイルスの対応で大変な状況です。今こそ私たち人間が一番大切にしなければならないこと、それが「思いやり」だと思います。

生徒の中にも、いろんな人がいます。もともと風邪などひきやすい人もいます。

普段から健康面で気を使いながら生活をしている人もいます。そんな人たちは、この新型コロナウイルスに対する抵抗力も弱いでしょうし、感染すると大変なことになる可能性があります。この病気が一番怖いところは、知らぬ間に人にうつしてしまう可能性があるということです。感染を広げないようにするために、生徒一人ひとりが、しっかり手洗いをしたり、マスクをしたり、大きな声を控えたりするなど、日々行っている感染対策は、すべて「思いやり」につながる行為です。そして、何より命を守るためのものであり、自分自身の命も大切にすることも「思いやり」につながる行為です。



この先も、生徒の中でも感染する人が出てくるかもしれません。こんな時だからこそ、「思いやり」が大切です。もし感染が身近で起こったなら、その感染した人が、少いで治療に専念できて、心穏やかに回復できるように、周りの人の温かいかわり、温かい目が必要だと思います。

「思いやり」を大切に、まずは感染を広げないように、生徒一人ひとりが体調管理に気をつけ、手洗いなどできる努力をしていくことが大切です。そして、感染をただ恐れるのではなく、感染が起こることも認識し、身近で感染が起こっても慌てることなく、そんなときこそ「思いやり」ある行動、態度を心掛けてほしいと思います。

コロナ対応を例に出し、「思いやり」について書きましたが、生徒たちが「思いやり」を意識するだけで、今以上に安心できて、居心地のよい学校になっていくはずで、「思いやり」を大切に、常に意識して行動できる人になってほしいです。

『柔軟』について

「変化に柔軟に対応できる吉中生」。これまで数年間にわたり本校のめざす生徒像として掲げられていた目標です。あらゆる変化にも柔軟に、しなやかに対応できる人間に育ててほしいという願いが込められています。



現代社会は多様な時代と言われています。また、ITの急激な進歩など、目まぐるしく速いスピードで変化していく時代に、たくましく生きていくために必要なのが、まさに「柔軟」な対応力です。そして、今、人々を苦しめている新型コロナウイルス。現代人がこれまでに経験したことのない感染症。そして次々に形を変え変異株が出現し、その対応も変わっていくような状況。その中でも、たくましく、力強く生きていけるように、生徒には育ててほしい。まさに今、生徒たちに身に付けてほしいのが「柔軟」な対応力です。「柔軟」な対応力を身に付け、多少の困難もしなやかに乗り越えるたくましさ身に付けてほしいと考えます。



～教育目標について～

「自らの道を、自信を持って 切り拓くことのできる生徒の育成」

吉川中学校の長年の課題ともいえるべき、生徒の「自尊感情」や「自己肯定感」「自己有用感」の低さ。周りから見れば、輝くものをいくつも持っているのに、当の本人が、その良さに気づいていなかったり、自信を持てていなかったり。そして周りの目をととても気にする傾向があり、失敗することを極度に恐れてしまう。みんながみんな、そうだとは言いませんが、総じてその傾向が強いです。この傾向が強いせいか、積極的に物事にチャレンジしようとする力が弱く、自分の持つ可能性を伸ばしきれていない気がします。とてももったいないと思います。

よって、目標ではその傾向を打ち破るべく、「自信を持って」という言葉を入れ、「自分の道を切り拓くことのできる生徒」という文言にしました。本校の生徒たちは、これに尽きると考えています。今より自分自身に自信を持てるようになり、自分で自分のことを認められるようになれば、今の何倍もの輝きを放つようになると思います。

学校は「学ぶ場」「教わる場」であります。生徒は、知識も乏しいし、経験も少ない。だから学ぶために、教わるために学校に来ています。そのような生徒だからこそ、わからないことだらけで当然です。失敗も当然です。もっと「わからなくてOK」、「失敗してもOK」という雰囲気を作りたいと考えています。そして、失敗しながら、次は失敗しないためにどうするかを生徒自身に考えさせ、教職員はそのサポートをする。サポートであって、教え込んだり、道を指し示したりではいけないと考えています。希望は与えても、道を指し示すのではなく、自分で見つけ出させる。授業においても、生活面の指導においても、教職員にはそのスタンスが必要だと言っています。

生徒たちには、先に示した「自律」を意識させ、自分でつかみ取る経験をたくさん積みせたいと考えます。そして、教職員は、生徒の頑張りを見逃さず、タイムリーにほめ、また良さを伝えることを積極的にしていきます。そういう営みを繰り返せば、生徒は間違いなく自分自身に自信を持つようになり、次にチャレンジする意欲を沸かせ、失敗も繰り返しながら、自分自身でたくさんのことをつかみ取り、自信を膨らませながら、自らの道を切り拓いていくと考えるのです。

「自らの道を、自信を持って切り拓く」。そのような生徒の育成をめざしていきます！

